



秋田県立 稲川支援学校教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

本校は湯沢市の北東栗駒山麓に位置し、中心市街地からはやや離れている。公共交通手段としては路線バスがあるが、運行便数が少ない。本地域は果樹、川連漆器、稲庭うどん等の地場産業が伝統的に引き継がれており地区の経済を支えている。

福祉圏域としては湯沢市、羽後町、東成瀬村であり、児童生徒の出身地もおおむね同様である。地域の児童生徒数の減少にともない本校の児童生徒数も緩やかに減少に向かうと予想されるが、創立30周年を契機に、改めて地域の特別支教育の一端を担う意識を強くもち日々の教育実践にあたっている。

対象の障害種は知的障害であるが、肢体不自由や発達障害を併せもつ児童生徒が増加傾向にある。また、障害の多様化、重度化にともない医療的ケアを必要とする児童も在籍している。

平成25年12月、高等部棟が増築された。これを機に、地場産業との連携等による職業教育のより一層の充実と作業学習製品の付加価値の向上を目指している。また、インクルーシブ教育システムの理念を大切にしながら、児童生徒が地域で開催される様々な行事に積極的・恒常的に参加し、障害児・者への理解促進を図っている。

進路については各事業所等による障害者雇用の意識が向上してきていることと本校キャリア教育の成果により、一般就労希望者が希望する職種に就ける機会が増加している。また、指定障害福祉サービス事業所の新規開設とサービス内容の質の向上により、地域社会への参加の機会が増加すると予測される。

障害者差別解消法等の法的整備が進むなか、支援を受けつつも障害者が社会で自立した生活を営む力を今まで以上に要求される場面が増加してきている。今後は、社会の変化に素速く対応できるフレキシブルな教育課程の編成が必要になることが予想される。

II 目指す方向性・学校像や児童生徒の姿

1 学校像

- (1) 安全で安心して過ごせる学校
- (2) 児童生徒一人一人の力を伸ばす学校
- (3) 地域から信頼される学校

2 児童生徒像

校是「健康 勤労 親和」

- (1) 明るい子 礼儀正しく、元気にあいさつができる児童生徒
- (2) 元気な子 健康で、安全な生活ができる児童生徒
- (3) がんばる子 進んで取り組み、最後までやり抜く児童生徒

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標**1. 【安全で安心して過ごすために】**

- (1) 保護者や関係機関と連携した安全体制の整備
 - ・緊急時一斉メール配信について全員加入理解を推進する。
 - ・保護者や地域住民との合同避難訓練の実施を含め避難訓練を年6回実施する。
 - ・医療的ケアの必要な児童生徒について緊急時対応訓練を年3回行う。
 - ・アレルギー対応について職員間で情報交換を行う。
- (2) 安全教育（社会生活で自立的に安全確保できるために）
 - ・路線バス利用者に対する登下校時の緊急時対応や事故防止についての訓練会を年3回行う。

2. 【児童生徒一人一人の力を伸ばすために】

- (1) 専門性の向上と授業改善
 - ・各学部を対象とした全校授業研究会を年1回、各学級を対象とした学部授業研究会を年2回行う。
 - ・研修の成果を共有し効果的な取り組みを自校に生かす。
 - ・障害児・者を包括的に捉え、関係法規、福祉制度を理解する。
 - ・PT、ST、OT、教科等指導支援の活用により、日々の授業内容を充実させる。
 - ・校内外の関係者による発達障害、医療的ケア等に関する研修会を年1回以上開催する。
- (2) 就労可能な生徒の雇用率の向上と職場定着
 - ・キャリア教育の視点から地域と関わる職業教育を展開する。
 - ・ハローワークや地場産業等との連携を強化する。
 - ・就労希望者の就職率100%を達成する。
 - ・実習を通じて生徒と企業 mismatches を防ぐ。
 - ・障害者就業・生活センター等の関係機関との連携によるきめ細やかな追指導を行う。

3. 【地域に信頼される学校になるために】

- (1) 小中学校等の支援の充実
 - ・幼稚園、保育所、認定子ども園に対する支援体制を確立する。
 - ・多様性の尊重、障害児・者理解につなげる授業等の依頼に応ずる。
 - ・関係機関と連携して、教育相談、体験学習等へ協力する。
- (2) 社会に開かれた教育課程の編成と実践
 - ・学校評価、保護者評価、学校関係者評価等を通じて教育課程を編成する。
 - ・家庭での活動を教育課程に取り込む。
 - ・関係機関との連携により、児童生徒の成長や課題を共有する場を設定する。
- (3) 本校認知度の向上
 - ・作業学習製品を地場産業と共同開発する等の地域資源を活用した活動を展開する。
 - ・地域行事に積極的に参加する。
 - ・小、中、高各学部に応じた交流及び共同学習の相手校を増やす。
 - ・商工会議所、観光物産協会等との連携した実習の場を増やす。
 - ・児童生徒の活動や作品等の紹介をホームページを等して発信する。
 - ・学校報、ミニ学校展、作業製品販売等の機会を通して紹介活動を積極的に行う。